

# 式辞

本日、津幡町副町長 坂本守様をはじめとするご来賓の方々、保護者の皆様をお迎えして、津幡町立津幡中学校第七十六回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより教職員にとりましても、大きな喜びでございます。

ご臨席を賜りました皆様方には、日頃から本校の教育に深いご理解と温かいご支援をいただき、さらには巣立ちゆく卒業生の門出に華を添えていただきましたことに、心からお礼を申し上げます。

本校を巣立つ百七十名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。昨年5月に新型コロナウイルス感染症に係る位置付けが5類に移行され、皆さんが中学3年生として過ごした一年は、学校もようやく本来の姿を取り戻した一年でした。皆さんは、この一年、伝統ある津幡中学校の「最高学年」「学校の顔」として、学習や部活動、運動会や文化祭等の各種行事で、先頭に立って1、2年生を引っ張ってくれました。

9月に行われた運動会。「力戦奮闘～一瞬を全力で～」のスローガンのもと、競技に臨む真剣な姿、必死で仲間を応援する姿、そして勝利した瞬間、喜びを爆発させた弾ける笑顔の数々が、今でも目に浮かびます。そしてアピールタイム。各クラスの応援リーダーを中心にみんなで作り上げたパフォーマンス。何回かの団練習を通して、3年生のこの一瞬に懸ける思いが1、2年生にも伝わりました。本番では各団の心が一つになった見事なパフォーマンスの数々が繰り広げられました。心が震えるほどの感動を覚えました。

10月に行われた文化祭。「一唱懸命～この一瞬を謳歌しろ～」のスローガンのもとでの合唱コンクール。各クラスで創り上げた「最高学年」としての素晴らしいハーモニーがホールいっぱいに響き渡りました。「群青」「手紙」「友」「虹」「地球星歌」どのクラスの歌声も甲乙つけがたく、心が震えるほど感動しました。運動会、合唱コンクール等の行事で発揮した皆さんのエネルギーとパワーは圧巻でした。皆さんが見せてくれた姿を、これからは1、2年生が引き継いでくれます。3年生の皆さん、本当にありがとう。

さて、皆さんがこれから生き抜いていく社会は、私が過ごしてきたものとは大きく異なります。皆さんが大人となって生き抜く近未来は、今までと同じ考えや行動のままでは通用しない時代、答えが一つではない時代、答えが予測できない時代になります。そのような時代においては、自分の考えを主張するだけでなく、互いの考えの違いを認め、互いの考えのよさを受け入れ、新たな考えを互いに創造しようとする姿勢、力を身に付けることが大切となります。

困難や課題を解決するために、お互いが納得できる答え、課題解決への「正解」を導き出す姿勢、力を、あなたがたのこれからの人生という時間の中で、身に付けていってください。

さて、1月1日に、能登半島地震が発生し、多くの尊い命が犠牲となりました。現在も、家が被災し、避難所や仮設住宅での不自由な生活を余儀なくされている方々もたくさんいます。そして、世界に目を向ければ、今も続く戦争で苦しんでいる人々があります。私たちは、改めて、生きていることへの感謝、そして当たり前な日常生活を過ごすことができることが、いかに幸せであるかを噛み

締めなければなりません。

イギリスのロマン派詩人であり、批評家、哲学者でもあったサミュエル・テイラー・コールリッジの言葉を紹介します。

「人生の幸せとは、ささいなことの積み重ねでできている。小さな、すぐに忘れてしまうような、あたたかいキス、微笑み、優しいまなざし、心からのほめ言葉、そして数えきれない、ちょっとした楽しい考えや嬉しい気持ちといったものだ。」

仲間とともに過ごした皆さんの3年間も、この言葉と同じだったかもしれません。時に傷つき、時に気持ちがすれ違い、涙した日もあったことでしょう。しかし、それ以上に、ともに喜びを分かち合い、仲間の優しさに心癒され、励まされ、勇気をももらったこともあったでしょう。そして、様々なことがあった中学校生活を、皆さん一人一人に寄り添い、優しいまなざしで見守り、頑張り努力する姿を褒め、認め、支え、ともに喜び、涙してくれた先生方がいてくれたことを決して忘れないでください。

皆さんはこれからも多くの人やもの、事に出会うでしょう。その中には、大切にしたい人との出会いや生涯をかけて打ち込みたい仕事との出会いがきっとあります。これらの出会いを成長のチャンスにするため、いつも温かく見守り、応援してくれる家族、友人、地域の方、先生方などに感謝の心を忘れず、これからの津幡町、そして日本、さらには世界に貢献する人になることを心から願っています。

保護者の皆様一言お祝いを申し上げます。お子様の御卒業、誠におめでとうございます。立派に成長したお子様の姿を目にし、感無量のことと思います。お子様のために、費やした全てが実を結び、本日ここに立派に御卒業の日を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。また、この三年間、本校教育に対する格別の御理解と御協力を賜り、改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

いよいよ、お別れのときが近づいて参りました。皆さんと過ごした一年間は、私の人生にとってかけがえのないものであり、皆さんと出会えたことを誇りに思います。なごりは尽きませんが、本校を巣立っていく百七十名の皆さん、一人一人の洋々たる前途を祈念しまして、式辞といたします。卒業生の皆さん、本当にありがとう。

令和六年三月九日

津幡町立津幡中学校長 泉 智一

